氏名： 水村 (久埜) 真由美 （KUNO MIZUMURA Mayumi）
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
学位： 博士（教育学）／ Ph.D in Education
職名： 准教授
専門分野： 身体運動科学（特に運動生理学およびバイオメカニクス）
URL： http://buyou1.li.ocha.ac.jp/Mizumura/HTML/index.html
E-mail： mizumura.mayumi@ocha.ac.jp

◆研究キーワード ／ Keywords

舞踊動作の科学／子どものからだ／柔軟性のメカニズム／健康科学／トレーニング科学
Dance Science ／ Physical fitness of children ／ Functional significance in Flexibility ／
Health Science ／ Training Science

◆主要業績 総数（ 11 ）件

- 「心と体をきたえる「ゆいまーる」E-wellness アクチベーションプラン」（小林稔、高倉実、水村（久埜）真由美ほか共著）平成 18 年度国民の健康•体力つくり実践活動に関する調査研究成果報告書、2007.
- 「ストレッチングによる適応現象の両極～一過性および慢性の可動性向上の比較から～」平成 19 年度文部科学省基盤研究 C 報告書、2007.
- 「上手な踊りの動作特性」2007、女子体育、49(7), p60.
- 「女性のライフステージから考える運動とからだ」2007、MEDEX journal, 62, pp3-5.
- 「身体から考える子どもの身体活動と表現」2007、保育問題研究

◆研究内容 ／ Research Pursuits

2007 年度は以下の 3 つが主要な研究テーマであった。
1. 柔軟性の機能的意義に関する研究
2. 舞踊動作の自然科学的研究
3. 子どもの身体諸機能に関する研究

テーマ 1 は 2006 年度までの 2 カ年で科研費採択により取り組んだテーマで、柔軟性の向上に寄与する生理学的バイオメカニクス的適応現象を、慢性および一過性の適応の両面から検討するものである。本年度は実験データの収集および解析を行い、科研費の報告書としてまとめた。

テーマ 2 は、私および私の研究室の主要な研究テーマである。今年は主に 2 つの研究を行った。1 つめは、科研費採択により取り組んだ共同研究で、日舞およびクラシックバレエ熟練者の動作をモーションキャプチャーシステムにより取得し、その動作特性とその動作を鑑賞した者が受けた印象を質問紙調査により検討することにより、表現の動作特性と認知特性の両面から舞踊の独自性および個別性を調査した。2 つめは、舞踊動作の動作解析と筋電図学的研究の可能性を検討し、その内容を国際ダンス医科学会議において招待講演として発表した（写真）。

テーマ 3 では本学着任以降、附属小学校のからだ部と連携して行っている小学生児童の体力変化に関する縦断的な調査を行った。またこうした研究調査のデータを基に学校教育における体育および舞踊教育の役割について検討した。

なお今年度は、4 月から 11 月まで次男出産のため休職したが、昨年度より、科学技術振興機構よりお茶の水女子大学が採択された「女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築」により、子育て中のモデル研究者として研究補助のアカデミックアシスタントが採用され、研究支援を行ってくれたことから、円滑な研究活動を続けることができた。

Research project in 2007 was consisted of three main areas.
1) Functional significance of flexibility in human
2) Biomechanical characteristics of dance movements
3) Physical fitness and health status in elementary school children.

1) was granted from JSPS as Kakenhi and 2007 was final year of the research project. In 2007, we have done testing again, analyzed and finished writing research reports.

2) was long-term research project for our laboratory In 2007, we focused on the biomechanical characteristics of Japanese traditional dance and classical ballet for skilled dancers.

3) was collaborative studies with teachers of elementary school attached to Ochanomizu university.

◆教育内容　／　Educational Pursuits

本年度は、出産のため、学部および大学院の授業は開講しなかった。

研究指導は、学部生２名、博士前期課程４名の卒業論文と修士論文の指導を行った。また博士後期課程３名の大学院生については、引き続き学位論文に向けての研究指導を行った。

卒業論文、修士論文のテーマは以下の通りである。

卒業論文

「郡上踊りが中高年者の Health Related Ouality of Life に及ぼす影響」

「ストレッチングが筋束長および筋の末梢循環に及ぼす影響」

修士論文

「クラシックバレエ経験者の歩行動作特性」

「日本人洋舞家の予防的保健行動に関する検討」

「中高年者の自重スクワット動作の強度と下肢筋力との関係」

「ボールルームダンス競技選手の体力特性と競技水準との関連」

なお研究室所属院生が、日本体力医学会にて１演題、日本臨床スポーツ医学会にて１演題、国際ダンス医科学会にて１演題、それぞれの研究テーマで研究発表をし、その指導を行った。

In 2007, I did not have any classes because of my maternity leave from April to November. I have supervised two under-graduate students, five master students, and three Ph.D students for their own research project. Three graduate students made presentation at both national and international conferences.

◆研究計画

舞踊を中心としたさまざまな身体運動による人間の身体諸機能の可塑性を検討するとともに、熟練した舞踊動作、いわゆる芸術性の高いと評される運動の成立のメカニズムを解明したいと考えている

これまでの企業・民間財団からの助成金による研究テーマ；

・中山隼雄科学財団研究助成「ダンスが中高年女性の全身反応時間に及ぼす影響～リズミックな動きを模倣する点に着目して～」2000, 80 万円 /1 年

・明治生命体力事業財団研究助成「柔軟性の機能的意義」2001, 100 万円 / 1 年

・中富健康科学財団留学助成「日豪の生活習慣の違いが運動による酸化ストレスに及ぼす影響」2002, 100 万円 /1 年

・コンビ株式会社研究寄付金「運動の脂質代謝に対する基礎的研究」2002,99 万円 /1 年

・コンビ株式会社研究寄付金「運動の脂質代謝に対する応用的研究」2003,99 万円 /1 年

共同研究として考えられる研究テーマの例；

・舞踊動作の身体運動としての可能性

・芸術的動作成立のメカニズム

・子どもの健康および体力に関する研究

・女性のライフスタイルに応じた運動と健康に関する研究

◆メッセージ

人間の行う動きは非常に複雑で巧みです。その動きや動きを起こす身体のしくみに興味をもって地道に研究を続けられる若い人たちと一緒に研究をしたいと思っています。私が所属するコースは、国立大学法人唯一の舞踊を専攻することのできるコースです。またその中にあって、私は唯一自然科学系の学問領域から、舞踊やスポーツ、さまざまな運動を対象として、研究を行っています。「舞踊を科学」してみたい人にとっては、まさに日本で唯一の教育環境といってもいいでしょう。

また働く女性とし、母として、女性のライフスタイルと運動や健康に関しても大きな興味をもっています。エネルギー溢れた女性のライフスタイルをサポートする研究を一緒に行ってみませんか？

老若男女を問わず、運動が人間の身体に及ぼす影響について、健康科学や身体表現の観点から、企業とも共同研究を進めています。今後とも積極的に共同研究を行いたいと思っています。